

公開研究会

あれから 4 年：仮設から災害公営住宅へ ～高齢者・障がい者の暮らしの場を考える

東日本大震災からまもなく 4 年が過ぎようとしている。被災各地では復興に向けて災害公営住宅等の整備や、まちの復旧整備が急がれている。

仮設住宅での暮らしも 5 年目に突入する。災害公営住宅の整備も予定より遅れている中、自力再建できる方々は徐々に仮設住宅を離れ、結果的に仮設住宅には高齢者など社会的な弱者がとどまり、暮らしているという現実もある。

仮設から災害公営住宅へという移行のプロセスにおいて、現在起こっている実際や諸課題を共有し、特に高齢者や障がい者の暮らしの場の再興に向けての課題を、過去の震災の教訓を踏まえて再確認する場としたい。主題解説をいただく 4 名は、いずれも震災復興の現場で直接的に高齢者や障がい者の暮らしの場の計画に関わってきた方々であり、現実的かつ実践的な対応の中で、また理想と現実の間での困難や課題、その解決に向けての知恵や知見をお持ちの方々である。

震災 5 年目を迎えるにあたって、ますます重要となる高齢者・障がい者の暮らしの場のあり方について、あらためて考え、広く議論し、情報を共有する場としたい。

主 催： 建築計画委員会 住宅計画運営委員会 高齢者・障がい者等居住小委員会

東日本大震災における実効的支援の構築に関する特別調査委員会 岩手・宮城支援検討小委員会

日 時： 2015 年 2 月 26 日（木）13：30 ～ 17：00

会 場： 建築会館会議室（港区芝 5-26-20）

<プログラム（予定）>

主旨説明：石井 敏（主査：東北工業大学）

主題解説

1. 阪神大震災後のグループハウスの経験から 三浦 研（大阪市立大学）
2. 仮設住宅と高齢者・障がい者の暮らし 中村 大蔵（社会福祉法人阪神共同福祉会）
3. 災害公営住宅計画における福祉連携 佃 悠（東北大学）
4. 相馬市が取り組む長屋型災害公営住宅の意義と実際 相馬市建築課担当者予定（相馬市）

ディスカッション

まとめ：橘 弘志（実践女子大学）

司会：神吉 優美（奈良県立大学）

参加費： 会員 2,000 円、会員外 3,000 円、学生 1,000 円（資料代含む／当日会場払い）

定 員： 50 名（申込み先着順） ※定員を増やしました。

申込方法： Web 申し込み <https://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=989> よりお申し込みください。

申込問合せ： 日本建築学会事務局 研究事業グループ 榎本

TEL：03-3456-2051 E-mail：enomoto@aij.or.jp